

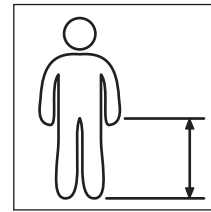
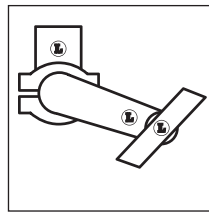
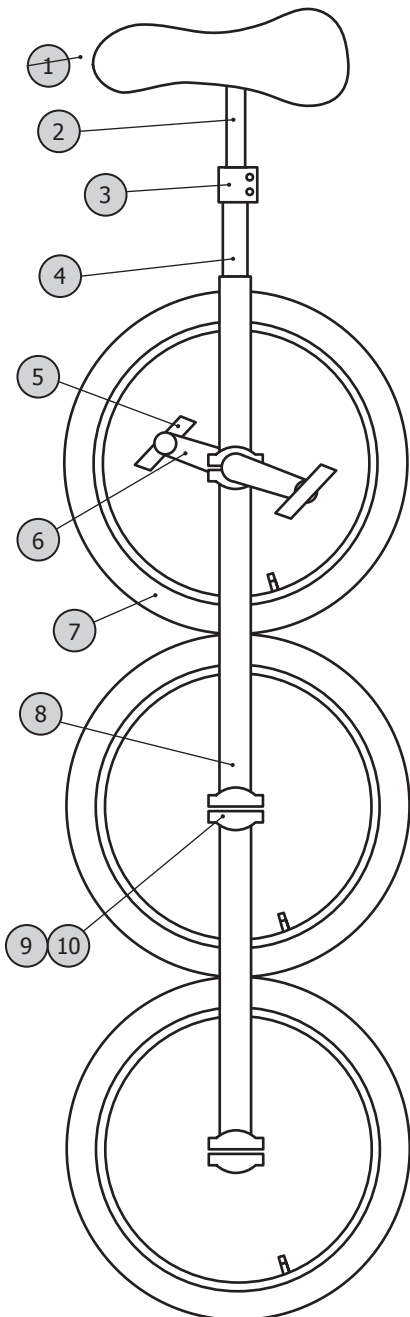
Unicycle.com

一輪車の組み立てには確かな技術と経験が必要となります。同梱された製品マニュアルを参照して正しい組み付けを行って下さい。
ご自身での組み立て作業が困難な場合は、速やかに確かな技術と経験を有する技術者にご依頼ください。

組立方法:

- コンポーネント:
- サドル ① シートポスト ②
 - シートクランプ ③
 - フレーム ④
 - ペダル ⑤
 - クランク ⑥ ホイール ⑦
 - 延長フレームx2 ⑧
 - ベアリングクランプx2 ⑨
 - ボルトとワッシャーx12個 ⑩
- 使用する空気入れ: シュレッダーバルブ
(自動車と共通)

1. シートクランプは固定ボルト部分が後方となる様にフレームに取り付けて下さい。サドルが取り付けられた状態のシートポストをフレームに取り付け、シートクランプを仮止めして下さい。
2. サドルが取り付けられたシートポストをフレームに挿入し、シートクランプを仮止めします。
3. 一番上のホイールをフレームに取り付けます。ホイールに取り付けられたクランクのシール右側 (R) 左側 (L) で取り付け方向を確認してください。フレームと延長フレームのベアリングクランプ部分でホイールのベアリングを上下にはさみ、ボルトで固定します。
4. 真ん中のホイールを取り付けます。3.で取り付けた延長フレームの先端と、まだ取り付けられていない延長フレームのベアリングクランプでホイールのベアリング部分を上下にはさみ、ベアリングが適正に収まっていることを確認してボルトで固定します。
5. 一番下のホイールを取り付けます。4.で取り付けた延長フレームの先端にホイールを取り付け、ベアリングが適正に収まっていることを確認してベアリングクランプを取り付け、ボルトで固定します。
3.4.5.共通で、ホイールのベアリングを固定する時は取り付けボルトを交互に少しずつ締め付け、確実に固定して下さい (締め付けトルク5Nm)。過剰に締め付け過ぎるとベアリングやフレーム、クランプが破損したり、走行に支障を生じる場合がございます。
6. ペダルのネジ部分先端には右側に(R)、左側に (L) の刻印があります。右側(R)のペダルは正ネジですので、右回りで締まります。左側(L)のペダルは逆ネジですので、左回りで締まります。左右のペダルを正しくクランクに取り付けます。ネジ部分に高品質のグリスを塗布し、ペダルシャフトをネジ穴にまっすぐに取り付け、最初は手で締まる所まで締めこんで下さい。確実な取り付けが出来ていないまま工具で締めこむと、クランクが破損する場合がございます。スムーズにネジが回転して確実な取り付けが出来たことを確認できたら、ペダルレンチを使用してペダルを確実に固定してください (締め付けトルク35Nm)。
7. タイヤ空気を注入します。上と下のタイヤは空気圧を30~40PSIを目安に設定します。真ん中のタイヤは低めで11~15PSIを目安に設定します。3つのタイヤが決して空転する事の内容に、使用者の体格と体重に合わせて適正に空気圧を調整してください。
8. サドルの高さを調整します。一輪車に乗車した状態で、安全に操作できる高さに調整してください。シートポストが長く、適正な位置までサドルを下げられない場合は、パイプカッターなどを使用してシートポストを切断します。シートポストは少なくともフレーム内部に5cm以上差し込まれている必要があります。サドルを適度な高さに調整して、シートクランプを固定してください (締め付けトルク15Nm)。また、サドルが確実にシートポストに固定されていることを確認して下さい (締め付けトルク10Nm)。
9. 全ての部品が確実に取り付けられ、適正に固定されていることを確認してから使用を開始してください。



使用上の注意:

一輪車を使用する時は毎回、各部の点検を行って下さい。

- ペダル: 衝撃が加わる等の使用に伴い、ペダルのネジ部分は頻りに緩みます。ペダルが少しでも緩んだ状態で使用するとペダルやクランクの破損に繋がりますので、乗車前は毎回ペダルの増し締めを行って下さい。
- クランク: クランクの固定が不十分な状態で使用すると、クランクやハブの破損、及び異音の原因となります。乗車前は毎回クランクの取り付けボルトの増し締めを行って下さい。ホイールの回転が悪い場合、ベアリングクランプを締めすぎている可能性があります。ベアリングの摩耗や消耗も異音や異常の原因となります。ベアリングの着脱は技術者が、専門工具を用いて行って下さい。
- ボルト: 衝撃が加わる等の使用に伴い、各部のボルトに緩みを生じます。乗車前は毎回各部のボルトの増し締めを行って下さい。
- タイヤの空転: タイヤの空転は予期せぬ挙動を起こし、転倒に繋がる可能性があります。乗車前には毎回必ず空気圧の点検、適正な空気圧でご使用下さい。また、使用に伴うタイヤの消耗で、空転を起こしやすくなります。タイヤの消耗具合も常に点検を行い、すり減ったタイヤは早めに交換してご使用下さい。
- 乗車時は必ず、ヘルメット及び必要と考えられるプロテクターを装備して下さい。

警告! : 2ホイール一輪車は一般的な一輪車とは異なり、高い技術と熟練を要します。通常の一輪車の豊富な経験があったとしても、技術習得の過程で予期せぬ事故を起こす可能性がございます。使用する時は必ず、少なくとも一人以上の補助人員の付き添いのもと、常に周囲の安全に注意を払って使用して下さい。